ボーリング柱状図

調　査　名　平成16年度標津断層帯調査業務委託

事業・工事名　平成16年度地震関係基礎調査交付金事業

ボーリングNo. 1

シートNo. 1

ボーリング名	S04-Ko-1	調査位置	標津郡標津町字西古多糠			北緯	43° 47’ 13.8″
発注機関	北海道立地質研究所　地域地質部			調査期間	平成 16年 10月 9日 ～ 16年 10月 14日	東経	144° 58’ 31.8″
調査業者名	サンコーコンサルタント株式会社　札幌支店 電話（011-837-5537）	主任技師	田邉　謹也	現場代理人	越谷　賢	コア鑑定者	林 健太郎・越谷 賢	ボーリング責任者	中村　幸彦
孔口標高	146.00m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	試錐機	利根TDC-1G	ハンマー落下用具	トンビ
総掘進長	40.00m								エンジン	ヤンマーNFD-12	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日	標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値 0 10 20 30 40 50 60	原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（）	掘進月日
	145.37	0.63	0.63		耕作土	黒褐			有機質シルト。下部に橙色軽石が点在する。														
1	144.95	0.42	1.05		軽石	黄褐灰～黄橙			亜円。級化構造発達。(Ma-1)														
	144.65	0.30	1.35		ローム質粘性土	黄灰			軽石・スコリアを含む。										1.64 1.66		Ko-1-1.64		
2																			2.09 2.10		Ko-1-2.09		
	143.10	1.55	2.90		火山灰質シルト・砂互層	黄褐～黄灰			シルトには葉理(20° 傾斜) が発達。砂は級化構造が発達。1.65 m,2.10 m:腐植土(落ちコア？)														
3																							
4					砂礫	黄灰			凝灰岩・安山岩の亜円～扁平礫が主体で、基質は火山灰質砂。礫径は下部で大きくなる。														
5																							
6	139.88	3.22	6.12																				
7					シルト混り砂礫	灰褐			礫(平均径10～40mm,最大切長60mm)は安山岩・緑色凝灰岩・流紋岩が目立つ。大礫は安山岩が多い。基質はローム質粘性土。全体に礫径の淘汰は不良である。扁平礫の定向配列は所々で見られるが局部的であり、大きな傾向は捉えがたい。															
8	137.29	0.69	8.71																				
9	136.20	0.07	9.80		軽石	黄褐			細～中粒砂サイズ。														
					シルト混り砂礫	灰褐			最大礫径は50～80 mm 。細礫では緑色凝灰岩礫が目立つ。大礫は安山岩主体。下部で亜角礫多い。														10/9
10					軽石	黄褐			中粒砂サイズ。φ3～8 mm の亜円礫を含む。														
11																							
12					シルト混じり砂礫	灰褐			黒色、紫灰色の安山岩扁平～亜円礫(平均径10～40mm,最大切長50mm)が主体。基質はやや砂質なローム質粘性土。9.83～12.60m:扁平礫に定向配列(インブリケーション)が認められる。														
13																							
14																							
15	130.69	5.48	15.31																				
	130.60	0.09	15.40		軽石	黄褐			中粒砂サイズ。														
16																							
17																							
18																							
19					シルト混じり砂礫	灰褐			全体に腐り礫が多くなる。礫径や礫種は変化に富む。上部では白色流紋岩礫が目立つが、全体的に安山岩礫主体。硬砂岩や硬質礫岩の大礫を所々含む。基質はローム質粘性土。15.40～17.70m:扁平礫に定向配列(インブリケーション)が認められる。20.53～22.67m:大礫(径20～80mm)を多含。															
20										10/10 20.60													
21																							10/10
22																							
23																							
24	121.39	9.21	24.61																				10/11
	121.28	0.11	24.72		軽石	黄褐			基質に橙色軽石を多含する。														
25																							
26																							
27																							

110.71	10.57	35.29	シルト混り砂礫	褐灰	安山岩の短棒状～棒状コアが下部で多くなる。棒状コアはほとんどが黒色緻密な安山岩である。細礫は亜円～扁平礫で、凝灰岩や安山岩、流紋岩が主体である。27m・31m付近では閃緑岩礫を含む。基質はローム質粘性土。 25.18～30.00m:扁平礫に定向配列(インブリケーション)が認められる。	29.78 29.81 S04-Ko-1-29.78	火山灰分析	10/12
109.83	0.88	36.17	砂～シルト	黄褐灰～黄灰	全体として、細互層(シルト質粘土と細粒砂)→細礫混り細粒砂→シルト混り砂礫の正級化相が3サイクル認められる。層理面の傾斜は水平～15° である。			
108.22	1.61	37.78	シルト混じり砂礫	暗黄灰	安山岩の大礫が多く、基質はローム質粘性土。36.80m付近:比較的新鮮な安山岩礫を含む。			10/13
106.00	2.22	40.00	スコリア質砂	黒褐	中粒砂。39m以深でやや粒径が粗くなり、所々小円礫(φ5～10mm)を含む。			10/14